

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294201658		
法人名	(株)ファミーユ		
事業所名	グループホームつぐみ下島		
所在地	静岡県駿河区下島447-2		
自己評価作成日	令和4年8月25日	評価結果市町村受理日	令和4年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294201658-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294201658-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年9月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者の思い願いを第一に考えるケアの実践を理念として、ご利用者の今までの生活や大切にしたいことをしっかり踏まえ、たとえ認知症があっても、居心地に良い環境を提供するよう心掛けています。  
また、コロナ禍でも、できる限り面会を継続できるよう対応しています。ご家族に密に連絡を取りご様子を伝えながら継続しています。面会を通して、ご利用者の楽しみやご家族とのつながりを大切に、また散歩や髭剃り、差し入れなど、ご家族の持っている力も最大限に発揮していただいています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

コロナ禍で家族に膨らむ不安を軽減させたく「居室の様子を便りに掲載する」企画を考えましたが、「他の人が見るのは…」という家族もいたため、結果新たに入居の利用者を中心に共用空間全体を紹介する「グループホーム下島 ご利用者の暮らし」と題した冊子が誕生しています。また年度はじめに立案する目標では「日曜レク」と題してレクリエーションに特化したところ、一人ひとりの趣味やADLなどを見つめた個別レクへの展開もみられ、その人の潜在能力が開花する事例もあがっています。見事なバチさばきに驚いたり、職員が作った俳句にダメ出しされたりと、単調となりがちな日常生活にエッセンスが生れ、笑顔が倍増しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用の思い願いを第一に考えるケアの実践の理念を達成する為、理念を共有し、サービスに反映するよう努力しています。理念に基づき、4月の職員会議で1年間の目標を立て、年度末に成果の話し合いをしています。	本年度の目標である「日曜レクの推進」では、そのプロセスのなかで居室担当者が気づきを発信したり、申し送りで本人の趣味に係る報告があったりと、日々理念に通ずる言動が職員に生れています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣への挨拶、マナーなど会議等で地域密着型としての職員の役割を伝えながら、実践しています。近所の方から施設に路上で高齢者が座り込んでいと相談があり、すぐに駆けつけ、水分補給をしていただき、体調確認を行った事例がありました。不要のオムツを近隣の方からいただきました。	散歩中の高齢者が道ばたに座りこんでしまったケースでは、近隣から事業所に通報があり、お助け処としての役割を果たすとともに、運営推進会議メンバーの民生委員とも連携がとれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により、運営推進会議やでんでん体操などは中止していますが、民生委員様から相談を受け介護保険サービスに繋げたり、施設の報告を継続しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員様にいただいた情報を基に、施設内での取り組み内容を変更したり、近所の野菜売りの情報などをいただいた時は、数人ですが買い物に出かけました。	駿河区では3月頃コロナが猛威を振るったこともあり、そういった乱高下の度に「また書面開催だね」と断念することが続き、運営推進会議は長らく参会できていませんが、メンバーとは地域の中で会えています。	メンバーとは日頃から協力関係が築けていますが、書面開催のなかに返信シートや葉書を同封することも検討ください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や生活支援課に様々な相談をさせていただき、また、包括支援センターにも現在の利用状況を報告、包括支援センター主催の研修にも参加しています。	先月の権利擁護に続き、次回の水害対策も参加予定で、地域包括支援センター主催での研修会は大いに役だっています。また空室がないため成立はしないものの、照会も日常的にあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠も夜間以外開放しています。年2回以上の研修、各事業所ごと4半期ごとの会議にて話し合うと別に委員会を設け、各事業所のケア状況の確認、身体拘束等廃止に向けた取り組みをしている。センサーや4点柵などについても必要な理由や他に代替えが無いかなど話し合いをしています。	条例で義務づけられた四半期毎の委員会の他にも「身体拘束廃止委員会」を備え、本件に手厚く取り組んでいます。法人内の事業所が集まることで、他事業所の事例を学ぶ機会となり、職員アンケートなどで現状把握も進んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の研修として虐待をテーマに行い、知識を学んだり、虐待にあたる行為がないか、ケアの見直しをしています。委員会でもスピーチロックなどについて話し合ったり、挨拶運動週間などを設けたり職員からのアンケートを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、年間研修内容に取り入れており、今年5月に成年後見制度や日常生活自立支援事業について勉強会を行いました。包括支援センターで開催した研修にも参加しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、また改定の際には、管理者からできるだけ詳しく説明を行い、またご利用者やご家族の悩みや困りごとを解決できるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	つづみ便りに個人へのコメント欄があり、居室担当職員が1ヶ月の様子を伝えています。ご家族からはコロナ禍における面会について問い合わせがあり、ご利用者の発熱状況などご連絡したり、自粛のお知らせなどもこまめに連絡しています。	職員が朗らかで話やすいことは以前から定評があり、例えば美容院経営の家族が使用済みの雑誌やタオルを都度寄贈くださるなど、家族と事業所の気持ちが一つになっている雰囲気は十二分に伝わってきます。	家族としては日頃のケアサービスに感謝しつつも、面会の方法についてはまだ改善の余地があると考えているようなので、是正を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて、職員からの意見を聞き反映しています。また、各事業所の管理者が毎月会議を行い、労務や人事などについて話し合いをしています。個々の家庭環境やプライベートにも配慮し、その職員の心情に合わせて人事課や課長が個人的に話をしています。	会議前には主要職員で話し合い、概ね方向性は定まっています。一方、そこは見せずに「聞く」という姿勢を示しているため、なんでも自由に言い合う文化が出来上がっていて、意見交換が活発です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課を行い、管理者は職員の自己評価シートを参考に、個人の努力、能力、適正などを評価し、職員がやりがいや向上心をもってもらえるよう、賞与や役職などに反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内に研修部を設け、新人研修や主任、副主任向けのスキルアップに向けた研修を定期的に行っている。また定期的に人事課で話し合い、該当する職員には、外部研修にも参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインでの外部の研修に管理者や副主任が参加し、グループワークなどで交流したり、その後連絡先を交換し、情報交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	6月に新規のご利用者を受け入れました。基礎疾患があり、身体的不安や入居に対する心配も多くあり時間をかけて話を伺いました。現在、任意後見人を依頼し、今後の相談を皆さんでしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規のご利用者のご家族より、不安や要望をお聞きし、できる限りの対応をしています。また、電話やメールなどを使用しながら近況を伝えたり写真をメールで送ったりしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の持っている力やご家族の力を見極め、支援する内容を職員と話し合い、共有しながらサービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者との関わりの中で、ご本人の思いや要望をお聞きしながら、できる限りの対応を行い、暮らしの仲間のお手伝いとして対応しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に近況を伝えながら、職員の一方通的な感情にならないようご家族の思いや要望をお聞きし、対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者が希望する会いたい人や行きたい場所、馴染みの場所を大切に、支援しています。ご利用者が長く関わってきた宗教の友人と会う機会を作ったり、電話で会話を繋いでいます。また、毎年お誕生日にご家族のお墓参りに行ったり、自宅に行ったりしました。	できる限り継続させている面会を通じて、利用者の楽しみや家族とのつながりを大切にしています。また散歩や髭剃り、差し入れなど、家族の力も最大限に発揮してもらっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の中で、それぞれのご利用者の暮らしてきた環境の違いから意見の食い違いはあるが、職員が間に入り、両者の思いを汲みながらご利用者同士がうまく関われるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、時々ご相談の連絡が来たり、昔話をしながらその方を偲んでいます。ご家族との関係性は続いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、ご利用者とコミュニケーションを取りながら、ご利用者の要望や希望を聴き取り、職員や管理者、看護師と話し合ってお本人の意向をできる限り反映しています。お菓子購入を楽しみにしているご利用者と一緒に買いに行ったり、公園でキャッチボールを行ったりしている。	「私の暮らしの流れ」「こだわり」「できること、できないこと」といった、センター方式が凝縮されたA3版のシートがあり、そこを基点に職員も本人の掘り下げや関わりの工夫が叶っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供前や、ご家族との面談でアセスメントを十分に取り、生活歴や馴染みの暮らし方を職員で共有し、反映しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの様子を朝の申し送りで伝えたり、介護記録や申し送りノートに記入し、全員で把握している。どんな小さな内容でも共有するよう心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議のカンファレンスで、ご利用者の介護計画の見直しを行い、また日々のケアの悩みや課題を話し合っています。居室担当(介護職)と計画作成者、管理者と一緒に1人のご利用者のご意向を中心に話し合い、ケア計画をしています。	コロナ禍となる以前からサービス担当者会議には家族の出席を募っており、家族とともに作成する態勢です。「伝染したら」と心配する家族もいるため、現在参加の意向を示しているのは1名のみです。	2表の援助内容における担当者は介護職員だけでなく、例えば家族とかボランティアとかが入ることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	血圧、食事量、排尿回数、入浴有無など、一眼でわかる独自のチェック表を作成し、職員同士が共有している。特に排泄等では、排便の様子を観察し、便秘にならないよう、工夫や取り組みをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月2回の提携訪問診療、歯科往診にて医療ニーズに応えています。また筋肉の拘縮予防、機能訓練、精神の安定を図るよう、訪問マッサージも取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部の方と接触ができるように、近隣のスーパーや100円ショップと一緒に買い物に行き、店員さんと会話したり、ご利用者と郵便ポストにお手紙を投函したりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の提携訪問診療を依頼し、ご利用の心身状態の変化や薬の変更についてなどをドクター、看護師、ご家族、職員と相談しながら決定しています。職員が診療に合わせて事前に様子や質問を用紙にまとめ、ご家族に確認してから診療、薬の変更を決定しています。	月2回訪問診療をおこなう医師には帯同の看護師がいますが、立ちあいには週1勤務の事業所の看護師とともに管理者(ほか主任・副主任など主要職員)が付き、医療情報の共有を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の日々の心身状況に変化があれば、看護師に連絡、相談し、訪問診療のドクターに報告しながら適切な受診や看護を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の心身状態に変化があった場合は、診療日以外でも、電話などで提携医に連絡し、指示を仰いでいる。また、内科以外の特異な医療については、定期受診をしたり、ドクターと連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、週末期のケアについて、ご家族や主治医と話し合い、ご本人、ご家族の思いを中心に最期の過ごし方を決定しています。また、重度化加算を受けており、定期的に看護師がご利用者の様子を確認し、記録しています。できる限り面会も行っています。	此処1年看取りはなく、コロナ禍となってからの2年余りもないことから、感染症対応のルーティーンが現在は確立していませんが、12月には法人内の看護師が対応方法や留意点を講義してくれることになっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月開催しているホーム会議の研修の年間行事に、緊急時の対応方法、連絡体制を学んだり共有し備えています。各事業所には緊急時対応マニュアルを電話口付近に張り出してあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍でも年2回以上の避難訓練を実施しています。地震や津波、火災などの訓練も想定に合わせて実施しています。社内で防災委員会を作り、委員による定期的な会議を行い、各事業所の備蓄や発動機などの調査、運転の仕方などを職員に指導している。食料なども期限切れを確認	昨年度目標としたマニュアル作りは防災委員会で作成を進めています。防災訓練はコロナ蔓延で遅れていましたが、近く本年度第1回を実施の予定で、職員の熱望に応え、AEDの使い方講習も実施します。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム会議の研修の年間行事にめる接遇マナーについての研修、新人職員向けの研修を行っています。介護はサービス業であることを常に職員に伝え、日々のケアの中で接遇マナーに気を配りながら対応しています。	入職時の研修とともに年1回は開催する接遇マナーの研修により職員は相手を敬う「形」を身につけ、また利用者の刺激と反応からなる一つひとつの言動を通じて「心」を学んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中でご本人の意向を反映し、ご本人の選択が必要な場合は、ご本人の返事をゆっくり待つよう心掛けています。ご利用者の希望を叶える「ハッピープログラム」も継続しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	窓際で過ごしたい方、ご本人の寝る時間のルーティンがあったりとそれぞれご利用者の過ごし方は異なります。当施設は細かなルールは作らず、ご本人のペースで過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、ご本人の着たい洋服を着たり、定期的に委託で美容師さんを招き、希望者にはカットしたり、美容院でパーマやカラーをする方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、ご利用者も職員も一緒に食事を摂るよう心掛けています。その中で好きな物や食べたいものを聴き取り、反映したり、食事の後もご利用者も一緒に食器を洗ったり、拭いたりしています。	刻み2名とペースト1名のほかにも食欲減退とかみ合わせの関係から様子をみながら経過観察となっている利用者もいますが、職員も一緒に食卓を囲むことで、1日の時間の節目を和やかなものとしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し、量の調整や食べやすい物の提供を行っています。また、水分量が足りない方にも、好きな飲み物やのど越しの良い物をご用意しています。栄養のバランスも確認し不足の方には補助食品なども提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを必ず行ってもらい、口腔内のトラブルが無いよう心掛けています。介助が必要な方にも、できるところまではご本人に磨いていただき、後で介助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者の排泄の力、パターンを確認し、出来る限りトイレでの排泄ができるよう促しています。 できるところはご本人に行ってもらい、大変なところのみ介助しています。	車いす使用4名と重度化が進んでいます。入居年数が長く自然なこととはいえ、排泄は本人にとっても機能維持の要なことから、「なるべくトイレで」を励行し、ベッド上の交換は1名に留まっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表では、排便の様子なども記録、観察し共有し、できるだけ自然排便ができるよう、運動や散歩を促しています。手作りヨーグルトは継続し、毎朝提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後どちらでも入浴ができ、ご利用者の好みに合わせて清潔を保持しています。立位が困難な方でも浴槽に入れるよう、2人介助で対応しています。	1日4、5人のペースで日曜日は休浴日でしたが、「ゆっくり入ってもらいたい」との職員意見から、「平日が4名、日曜が3名」とのオペレーションに替え、週3日のお風呂タイムの質が向上しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの就寝時間が異なり、ご本人のタイミングで居室に向かわれます。また、高齢や足の浮腫み、希望者には、日中お昼寝を促したり、その方の体調に合わせて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療と薬局との連携を図り、薬の飲み方や注意事項などは職員間で共有しています。些細な事でも心配事があればドクターや看護師、薬剤師に相談し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性利用者が多いが、食事の準備、片付けなど皆さん積極的に参加されています。その方それぞれの役割を持ってもらい、毎日役割を果たして下さっています。 また、食べたいものを聴き取り提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と定期的に散歩に行っています。少人数交替でできるだけ大勢の方が参加できるよう促しています。最近は気温が高いので熱中症も心配な為、ドライブなどを増やし、気分転換を図っています。	散歩は近くの神社までとか、目安をもって出かけています。「日曜レク」の実施で風船バレーやボーリングなど身体を動かす時間も増えているほか、時にはドライブに切り替え、人のいない場所を見つけて季節の風にあたり、景色を堪能する日もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物を伝える事ができるご利用者には一緒に買い物に行くなどしてお金の支払いも一緒に行っています。最近、コロナ禍により買い物はあまり行けていませんが、ご希望を聞き対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を自宅に送る企画を行っています。ご家族やお世話になっている方へ今年も送りました。また、日ごろなかなか会えないご家族へお手紙を書いて郵送しました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面係りが、毎月季節や行事に合わせた飾りをご利用者と作り、張り出しています。色や飾りつけに配慮し、イベントでは、飾った壁面の前で写真を撮ったりして楽しんでいます。また、調理の匂い、音を感じられるよう対面キッチンになっており、テレビの音やBGMを流して居心地の良い空間作りに努めています。	新しく入居した利用者の持ち物であった昭和歌謡のレコードジャケットは壁掛けボードに並べ、また壁掛け時計など周辺小物にも配慮してレトロ感満載のスペースを新たにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、窓際やソファなど居心地の良い場所やお気に入りの場所があります。また、席の配置も、気の合う仲間と同じテーブルにして楽しんでいただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって好きな物や使いやすい物、馴染みのある物を飾っていただいています。お仏壇や写真など、ご本人の思い思いの物が置いてあり、居心地の良い場所となっています。	共用空間全体を紹介する「グループホーム下島 ご利用者の暮らし」と題した冊子がつくられ、今後の入居見学では家族の役にたち、ひいては利用者がこれまでの暮らしが続く礎ともなりそうです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当施設はバリアフリー対応です。また、居室には、職員が書いた似顔絵と表札があります。トイレもわかりやすく書いて張り出しています。		